

当院では「市中精神科クリニックにおけるひきこもり患者の実態および予後調査」を行っております。

**【研究の目的・意義】**“ひきこもり”は大きな社会問題の一つとなっています。政府の推計では、2010年で70万人、2016年で56万人のひきこもりの方がいらっしゃると言われていています。日本だけではなく、韓国、香港、スペイン、フランス、インドなど様々な国でもひきこもりの存在が言われるようになってきました。当院でもひきこもり外来を開設し、すこしでもお役に立とうと医療を提供していますが、どんな方にどんな治療・手段を提供すると良いのかは、私たちも、また世界の人たちにもはっきりしていないのが現状です。

そこで、私たちは当院に初めて受診された方のデータを対象にして、受診患者様のどのくらいの方がひきこもりを経験しているのか、どのような背景を持っているのか、どのような方がうまく改善していくのかを調査します。

**【研究の方法】**対象は2015年4月から当院を初めて受診された方、家族相談の方です。調査票や問診から得られた情報を分析します。調査票では、性格や不安に関すること、同居者、ひきこもり経験や不登校の経験について伺います。分析では、個人が特定されない状態で解析し、結果も個人が特定されない状態で公表します。学会や論文、当院ホームページでの結果の公表を予定しています。

**【研究の期間】**2017年1月6日～2019年1月5日

**【研究機関名】**三家クリニック、京都大学医学研究科 社会健康医学 健康増進・行動学分野

**【個人情報の保護について】**個人情報は守られ、患者さんの氏名、住所など、ご本人を特定できる一切の個人情報が公表されることはありません。

**【研究責任者】**京都大学医学研究科社会健康医学専攻健康増進・行動学 古川 壽亮、医療法人 三家クリニック 今井 必生

**【本研究に関するお問い合わせ先】**医療法人 三家クリニック 今井 必生：〒572-0838 大阪府寝屋川市八坂町2-9-1、電話：072-829-2500

京都大学大学院医学研究科 総務・人事室 利益相反掛、TEL：075-753-4305、Mail：060rieki-sohan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp